

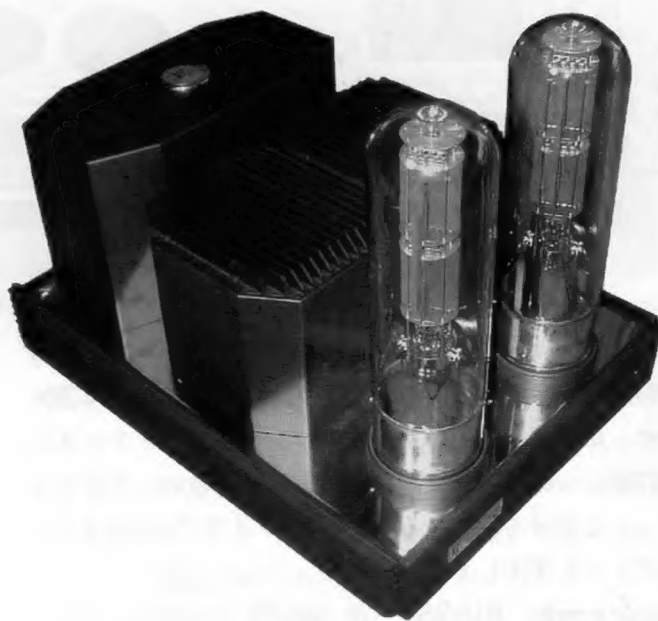
## ●KR 社 超大型管球アンプ “Kronzilla SD” 登場

チェコで真空管を製造している KR 社が開発した超ド級アンプ “Kronzilla” が日本に上陸した。

このアンプは KR 社がオーディオ用に開発した T 1610 を採用しているのが特徴だ。このアンプは故 Dr. Riccardo Kron が開発したアンプで、現在 KR 社は夫人である Dr. Eunice Joy Kron が社長として引継ぎ、また Mr. Marek Gencev 氏がチーフエンジニアとして技術一切を統括しており、忘れ形見といえるものだ。T 1610 は 1920 年代に WE によって開発された 212 の現代版とも言うべき真空管で、ほぼ同じ大きさでありまさにタマげたサイズである。1 本で 22 W 出せるというのもこのタマの特徴だ。大型直熱 3 極管にふさわしい風貌、特性、信頼性、寿命を誇るのもうなずけよう。ヒータは KR 社の特許である切れにく

い構造のリボン型フィラメントを採用している。

このアンプはシングルのステレオ仕様になっており、T 1610 を十分ドライブするために半導体 (MOS-FET) ドライブになっている。また日本での販売品はアムトランスによって、一部高音質部品に交換され音質改善が施されているようだ。



●1,200,000 円  
(1 台)

出力	2×22Watt RMS
歪率	0.5%以下
周波数特製	20Hz~20KHz(-3dB)
入力感度	1V
入力インピーダンス	90kΩ
AC入力	100V/230V
最大消費電力	300VA
サイズ	55×38.5×41.5cm
重さ	50kg

●シャーシ内部：左側のソケットが T 1610。

